

2023年度 事業報告書

(2023年4月1日から2024年3月31日まで)

学校法人敬和学園

敬和学園大学

敬和学園高等学校

I. 法人の概要 (2024年3月31日現在)

1. 学校法人敬和学園

法人本部

理事長 榎本 榮次

新潟県新発田市富塚字三賀境 1270 番地

電話 0254-26-3636 FAX 0254-26-3646

2. 設置学校及び所在地

敬和学園大学

新潟県新発田市富塚字三賀境 1270 番地

電話 0254-26-3636 FAX 0254-26-3646

<https://www.keiwa-c.ac.jp/>

敬和学園高等学校

新潟県新潟市北区太夫浜 325 番地

電話 025-259-2391 FAX 025-259-7281

<https://www.keiwa-h.jp>

3. 敬和学園の設立目的

この法人は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）及び学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に従い、福音主義のキリスト教精神に基づいて、敬虔な思いと真理による自由と愛とをもち、国際的現代社会に対する広い見識をもつ有為な人物を育成し、人類と福祉と文化の発展に寄与することを目的とする。

4. 設立の背景・沿革

新潟市開港 100 年記念の事業の一環として県市より土地が提供され、新潟県下の日本基督教団所属の教会をはじめ、内外にわたる教会の支援を受け 1968 年 4 月、日本基督教団立として敬和学園高等学校が創立されました。敬和学園の「敬」は神への畏敬を、「和」は隣人愛を基盤とする人の和、さらには地球的規模に拡大して平和を意味しています。

以来、故太田俊雄初代校長が礎を築き、ユニークな校風を生み出してきた敬和学園の教育理念は、1991 年 4 月、新発田市・聖籠町に創立された敬和学園大学の教育に引き継がれています。

敬和学園の沿革		
1963年	11月	新潟キリスト教主義高等学校設立準備委員会発足
1966年	7月	日本基督教団第9回常議員会にて、新潟キリスト教主義高等学校設置を議決
1967年	1月	新潟キリスト教主義高等学校設立準備委員会にて、高等学校名を「敬和学園」と命名
	6月	第1回理事会開催 初代理事長に北村徳太郎就任
	8月	新潟県、新潟市より高等学校校地無償提供

敬 和 学 園 の 沿 革		
	11月	寄附行為認可（敬和学園創立）
	12月	法人登記完了
1968年	3月	敬和学園高等学校設置認可
	4月	敬和学園高等学校 初代校長に太田俊雄就任 敬和学園高等学校開校式、献堂式 敬和学園高等学校第1回入学式
	12月	敬和学園 2代目理事長に大村勇就任
1976年	10月	敬和学園 3代目理事長に武藤富男就任
1977年	11月	敬和学園高等学校創立10周年記念式典
1982年	4月	敬和学園 4代目理事長に高橋勝就任
1984年	4月	敬和学園高等学校 2代目校長にジョン・モス就任
1986年	10月	理事会・評議員会で敬和学園大学設立を議決
1987年	11月	敬和学園高等学校創立20周年記念式典
1989年	1月	敬和学園 5代目理事長に後宮俊夫就任
1990年	4月	敬和学園高等学校 3代目校長に榎本榮次就任
	12月	大学設置認可（人文学部 英語英米文学科、国際文化学科）
1991年	4月	敬和学園大学 初代学長に北垣宗治就任 敬和学園大学第1回入学式 敬和学園大学開学式
1993年	4月	敬和学園大学人文学部英語英米文学科に教職課程（英語）設置
1997年	11月	敬和学園大学体育館新築・講義棟増築献堂式
1998年	1月	敬和学園高等学校チャペル完成・初礼拝
	6月	敬和学園高等学校創立30周年記念式典
2000年	9月	敬和学園大学人文社会科学研究所設置
2001年	4月	敬和学園大学創立10周年記念式典
2003年	4月	敬和学園大学 2代目学長に新井明就任 敬和学園高等学校 4代目校長に小西二巳夫就任 敬和学園大学 大学基準協会に正会員として加盟
	5月	敬和学園大学人文学部共生社会学科設置認可
2004年	4月	敬和学園大学人文学部に共生社会学科設置 敬和学園大学人文学部共生社会学科に社会福祉士国家試験受験資格課程を設置 敬和学園大学人文学部英語英米文学科を英語文化コミュニケーション学科に名称変更
2005年	4月	敬和学園大学人文学部国際文化学科に教職課程（公民）設置
	10月	敬和学園大学創立15周年記念セミナー
	11月	敬和学園大学創立15周年記念講演会
2006年	4月	敬和学園大学人文学部国際文化学科に教職課程（社会）設置
	11月	まちの駅よろず「新発田学研究センター」開設
2007年	1月	敬和学園高等学校 新ホール「友愛館」竣工
	11月	敬和学園高等学校創立40周年記念礼拝
2008年	3月	敬和学園大学 大学基準協会の大学評価により「適合」の認定を受ける
2009年	4月	敬和学園大学 3代目学長に鈴木佳秀就任

敬 和 学 園 の 沿 革		
2010年	3月	敬和学園大学ピロティ改修
	10月	敬和学園大学創立20周年記念式典
	12月	敬和学園大学アーチェリーレンジ竣工
2011年	4月	敬和学園 6代目理事長に大宮溥就任
2012年	4月	敬和学園大学人文学部国際文化学科に教職課程（地理歴史）設置
2015年	3月	敬和学園大学 大学基準協会の大学評価（第2期）により「適合」の認定を受ける
	4月	敬和学園大学 英語文化コミュニケーション学科の定員を80人から60人に変更
	5月	敬和学園 7代目理事長に小西二巳夫就任
	6月	敬和学園大学 4代目学長に山田耕太就任
2016年	4月	敬和学園大学 学生寮開設
2017年	2月	敬和学園大学 ラーニングcommons開設
	9月	敬和学園法人・高校創立50周年、大学創立25周年記念式典
	10月	敬和学園創立50周年事業、宗教改革500周年記念講演&オルガンコンサート
2018年	4月	敬和学園 8代目理事長に榎本榮次就任 敬和学園高等学校 5代目校長に中塚詠子就任
2020年	10月	敬和学園大学創立30周年記念式典
2021年	4月	敬和学園高等学校 6代目校長に小田中肇就任
2022年	3月	敬和学園大学 大学基準協会の大学評価（第3期）により「適合」の認定を受ける
2023年	4月	敬和学園大学 5代目学長に金山愛子就任

5. 設置する学校の学部・学科等の入学定員・収容定員・在学者数

(2023年5月1日現在 学校基本調査より)

学校名・学部・学科等			入学定員	収容定員	在学者数	定員充足率
敬和学園大学	人文学部	英語文化コミュニケーション学科	60名	240名	158名	65.8%
		国際文化学科	80名	320名	414名	129.4%
		共生社会学科	40名	160名	120名	75.0%
		計	180名	720名	692名	96.1%
敬和学園高等学校	全日制課程	普通科	200名	600名	496名	82.7%

6. 役員・評議員・教職員の概要

(1) 役員

(2024年3月31日現在)

定数：理事 13名、監事 3名

区分	氏名	常勤・非常勤の別	業務執行・非業務執行の別	就任年月日・主な現職
理事長 (7号理事)	榎本 榮次	非常勤	業務執行	2015年4月1日就任 2018年4月1日理事長就任
1号理事	金山 愛子	常勤	業務執行	2021年4月1日就任 2023年5月25日常務理事就任 敬和学園大学学長
2号理事	小田中 肇	常勤	業務執行	2018年4月1日就任 2021年5月25日常務理事就任 敬和学園高等学校校長
3号理事	宇田川 潔	非常勤	業務執行	2001年4月1日就任 2015年5月28日副理事長・常務理事就任
3号理事	下田尾 治郎	常勤	業務執行	2015年6月1日就任 敬和学園大学宗教部長
3号理事	田口 昇	非常勤	非業務執行	2023年4月1日就任 社会福祉法人シャーローム常務理事
4号理事	熊江 秀一	非常勤	非業務執行	2017年4月1日就任 日本基督教団大宮教会主任担任教師
4号理事	長倉 望	非常勤	非業務執行	2013年4月1日就任 日本基督教団新潟教会主任担任教師
4号理事	片岡 宝子	非常勤	非業務執行	2021年4月1日就任 日本基督教団東中通教会主任担任教師
5号理事	横山 由美子	非常勤	非業務執行	2014年4月1日就任 一般社団法人おらって市民エネルギー協議会副代表理事
6号理事	近 伸之	非常勤	非業務執行	2011年4月1日就任 日本同盟基督教団豊栄基督教会牧師
7号理事	山田 耕太	非常勤	非業務執行	2003年4月1日就任 日本新約学会会長
7号理事	浅妻 和章	常勤	業務執行	2023年4月1日就任 敬和学園高等学校教頭

区 分	氏 名	常 勤・ 非常勤の別	業務執行・ 非業務執行の別	就任年月日・主な現職
監 事	吉澤 昭男	非常勤	非業務執行	2002年5月31日就任 社会福祉法人キングスガーデン新潟 理事
監 事	佐藤 哲也	非常勤	非業務執行	2009年5月28日就任 新発田ガス(株)代表取締役社長
監 事	渡辺 明紀	非常勤	非業務執行	2017年4月1日就任 新発田建設(株)代表取締役社長

(2) 責任免除・責任限定契約、補償契約・役員賠償責任保険契約の状況

①補償契約の内容

私立学校法の改正に伴い、理事会決議により補償契約の内容を決定し、2021年12月1日から補償契約を締結した。

対象役員の氏名：

理事 榎本 榮次、宇田川 潔、金山 愛子、小田中 肇、下田尾 治郎、
田口 昇、熊江 秀一、片岡 宝子、長倉 望、横山 由美子、近 伸之、
山田 耕太、浅妻 和章

監事 吉澤 昭男、佐藤 哲也、渡辺 明紀

補償契約の内容の概要：

理事及び監事が職務執行に関して法的な責任追及を受けたときに、その防御費用や損害賠償金を学校法人が負担する。

②役員賠償責任保険契約（2023年度）の内容

私立学校法の改正に伴い、理事会決議により、2021年12月1日から役員賠償責任保険に加入した。

保険期間：1年間（2023年12月1日～2024年12月1日）

保険会社：東京海上日動火災保険株式会社

被保険者：学校法人敬和学園、本学園の理事及び監事

支払限度額：保険期間中総支払限度額1億円

保険料：154,660円

(3) 評議員

(2024年3月31日現在)

定数：27名

区 分	氏 名	就任年月日	主な現職
第1号評議員	浅妻 和章	2021年4月1日	敬和学園高等学校教頭
第1号評議員	一戸 信哉	2023年4月1日	敬和学園大学教授
第1号評議員	齋藤 正幸	2023年4月1日	敬和学園高等学校教諭
第1号評議員	下田尾 治郎	2014年4月1日	敬和学園大学宗教部長
第1号評議員	菅原 只行	2022年4月1日	敬和学園高等学校教諭
第1号評議員	趙 晤 衍	2011年4月1日	敬和学園大学教授
第2号評議員	上田 晋三	2010年8月1日	(株)サンフロスト代表取締役
第2号評議員	川村 雅子	2019年4月1日	新潟市社会福祉協議会職員
第2号評議員	鈴木 貴之	2005年4月1日	鈴木貴之社会福祉士事務所代表
第2号評議員	近 伸 之	2011年4月1日	日本同盟基督教団豊栄基督教会牧師
第2号評議員	長 北 博	2017年4月1日	(株)長北組代表取締役
第2号評議員	樋沢 康博	1997年5月28日	樋沢不動産代表
第3号評議員	清水 明次	2015年4月1日	日本基督教団小出教会主任担任教師
第3号評議員	本間 彊	1995年3月17日	丸屋本店(株)代表取締役社長
第3号評議員	横山 由美子	2008年4月1日	(一社)おらって市民エネルギー協議会 副代表理事
第4号評議員	荒木 京子	2023年4月1日	敬和学園高等学校教諭
第4号評議員	石原 剛	2021年4月1日	パルス電子(株)代表取締役
第4号評議員	宇田川 潔	2001年3月30日	敬和学園 副理事長・常務理事
第4号評議員	片岡 謁也	2014年4月1日	日本基督教団若松栄町教会主任担任教師
第4号評議員	熊江 秀一	2017年4月1日	日本基督教団大宮教会主任担任教師
第4号評議員	小竹 城	2015年4月1日	敬和学園大学事務局長
第4号評議員	坂井 義信	2023年4月1日	敬和学園高等学校事務長
第4号評議員	鷹澤 昭一	2019年4月1日	NPO法人妙高こうげんむら理事長
第4号評議員	高澤 大介	2013年4月1日	菊水酒造(株)代表取締役社長
第4号評議員	田口 昇	2021年4月1日	(福)シャーローム常務理事
第4号評議員	田中 美香	2015年4月1日	(学)新潟福祉医療学園ニフイスこども園
第4号評議員	辻元 秀夫	2019年4月1日	敬和学園大学寮監

(4) 教職員数 (2023年5月1日現在)

① 法人

専任職員 2名

② 大学

専任教員	25名	専任職員	20名
特任教員	1名	任期付専任職員	2名
契約講師	3名	嘱託職員	4名
客員教員	1名	臨時職員	2名
非常勤講師	59名	非常勤職員	8名
合計	89名	合計	36名

③ 高等学校

教諭	33名	専任職員	21名
助教諭	3名	嘱託職員	9名
常勤講師	4名	臨時職員	4名
非常勤講師	6名		
合計	46名	合計	34名

7. 内部統制の実施状況

本学園の寄附行為、建学の精神等の基本理念に沿って、自主性と多様性に基づく教育、研究及び社会貢献活動等を行うため、ガバナンスの強化、向上に取り組んでいます。

2021年度より「日本私立大学連盟 私立大学ガバナンス・コード」により遵守状況を自己点検し、外部に公表することにより、法人運営における透明性と適格性を確保しつつ、内部統制システムの構築を進めています。

2023年1月に「監事監査規程」、「監事監査マニュアル」、「監事監査チェックリスト」を整備し、毎年作成される監事監査計画に基づいて、業務監査及び財務監査を実施しています。

II. 中長期計画

1. 敬和学園大学の目指すべき方向性(2019～2023 年度計画)

(1) AI時代のリベラルアーツ教育

「多様性」(ダイバーシティ)と「ICT」をキーワードに、共通基礎科目の講義内容を市民教育へと収斂させるなど、人権・平和・共生にアクセントを置いた教育プログラムを展開するためのカリキュラム改革を実施します。

(2) ミッション・ステートメントと中長期ビジョンの共有

ミッション・ステートメントを柱に、大学教職員が一致団結してユニークな敬和教育を創造していきます。地元の学生を地元の地域社会を担う人物に育成していく「地域循環型教育」、とりわけサービ斯拉ーニングに重点を置き、「まちなかキャンパス化」を進めます。

(3) 大学の魅力と質保証

大学の各種方針を定め、PDCA サイクルを確立し、教育の質の向上を図ります。2019年度は第三者評価、2021年度は大学基準協会による大学評価を受けます。

評価後は、より魅力ある大学となるように改善するとともに、大学の魅力を発信するため、入学から教育活動を経て卒業、就職するまで一貫した広報活動を展開していきます。

(4) 学生確保の方針

人口減少が進み、県内の大学進学者も減少することが予想されます。このような状況の中、敬和学園の「7年間の一貫教育」を具体化して、キリスト教教育・英語教育・情報教育・歴史教育などの教育課程を始め、寮教育、クラブ活動、ボランティア活動、サービ斯拉ーニングなどの課外活動の連携、法人組織の支援協力体制の強化を進めます。敬和学園高等学校からの内部進学者による入学定員の確保と、収容定員の100%維持を目指します。

(5) 学生支援体制の強化

2015年に開所した学生支援センターと2016年に開寮した学生寮について、当初の目的を達成しているかどうか点検評価を行い、改善すべき点を改善します。

学生アンケートや卒業時アンケートの調査結果から、学生の満足度を上げるための学生支援体制を強化し、退学者数3%以内と就職率80%達成に努めます。

(6) 国際交流の強化

短期留学を促し、在学生の5%が留学(海外研修を含む)することに努めます。

(7) 経営改革・財政改革

教職員一人ひとりが経営マインドをもち、将来を見据えた上で、時機に応じた改革を進めていく必要があります。人件費比率を60%以下に抑えつつ180人の学生確保を前提として黒字化を進めていきます。

2. 敬和学園大学の中長期計画の進捗・達成度状況

AI時代のリベラルアーツ教育を推進し、Society 5.0に対応できる人を養成するために情報メディア・コースの教員を増員することを決め、新任人事の公募を行いました。

大学の魅力アップのために、高校生、在学生を対象とした大規模アンケートを実施し、将来構想、カリキュラム改訂、教育の充実、学生支援のための検討材料としています。内部質保証については、学修成果の可視化の直接的指標の一つとして、学生のジェネリックスキルを測定するテストの導入を決定しました。同時に、卒業生を採用していただいている企業を対象としたアンケートを実施し、本学の教育がどの程度卒業生に定着しているか、企業に評価されている点と評価されていない点を確認し、授業運営やカリキュラム構想に活かしています。

カリキュラム改革については、2021年度から新カリキュラムに移行し、2022年度に完成年度を迎えましたが、2023年度には、2024年度以降の入学生を対象としたカリキュラムの再編について検討し、4年次に卒業論文、演習等の選択必修科目を加え、4年間の学びの集大成として学修成果物を提出させ学修成果の可視化を図ります。また、全学生を対象に海外留学あるいは地域貢献活動への参加を必修とし、学生の汎用的能力の涵養を目指します。

学生確保については、2023年度及び2024年度の入学者の定員割れが続いており、今後も18歳人口の減少が進むことから、学内で学科組織の改編について協議を重ねてきました。2024年度には方向性を決定し、2026年度からの実施に向けて準備を進めます。

地域連携においては、阿賀北ロマン賞（2008年～2019年）を継承した阿賀北ノベルジャム（2020年～）は2023年度をもって終了とし、「まちなかキャンパス化」を具体化させる方向に舵を切りました。本学のサービスラーニングや生涯学習の拠点として、新発田市内の空き店舗等の活用を検討しています。

2023年度の国際交流では、新型コロナウイルスが5類に移行したこともあり、アメリカ、中国、オーストラリアへの学生の留学や研修が活発化しました。さらに国際交流事業を充実させるために、英語圏の留学先を検討しています。

施設設備の更新については、2023年度の主な施設整備事業として、栄光館の外壁の改修工事及びオレンジホール、ラーニングコモンズ、S31教室、図書館の照明のLED化工事を予定どおりに実施しました。また、中長期計画外の事業として、夏の高温化による学生の課外活動中の熱中症対策のために、トレーニングルーム及び武道場にガスヒートポンプエアコンを設置しました。

Ⅲ. 事業の概要

理事長 榎本 榮次

学校法人敬和学園の2023年度の事業概要を報告します。

1. 法人

森羅万象、春を愛でる新年度が始まりました。2023年度は、4年続きのコロナ禍もようやく終息を見ているようですが、年始めには能登地震のために、多くの被災が見られます。世界ではウクライナ戦争が未だ解決の見通しが見えず、イスラエルによるガザ侵攻も激しさを増しています。一日も早い和解の解決を求めます。

そのような中で、敬和学園は様々な課題を抱えながらも意義深く教育が進められていることを感謝します。

学生確保や財政面でも困難は尽きませんが、敬和学園はここに無くてはならないものであることをしっかりと自覚したいと思えます。それは真にキリスト教主義に立つ人格教育です。

ここ数年、AI（人工知能）による支配が大きな流れを作っています。ある意味で素晴らしい新しい時代です。無駄をなくし、目的に向かってすぐに到達できる手法がどこにいても手に入ります。人の手を通さずに物事が進められるようになりました。無駄が省けて便利になりました。しかし、そこには大きな落とし穴があることも確かです。その結果、考えや立場が違っていると会話はしなくてもいいという状況が生れます。それは個人のレベルでも、国家レベルでも言えます。物理的には多くの人と出会っているけれども、本当の出会いは難しくなっています。若者は特に孤独な怖れに囲まれているというのが現実ではないでしょうか。有機的な交わりに欠けるという大きな問題を生み出すことも忘れてはなりません。科学的であることは決して有機的なことを無くすことではないはずで、今こそ敬和の人格教育が求められていると思えます。状況は厳しくなっていますが、ここは忍耐の時だと思います。

敬和教育は「人づくり」です。人数を追うのではありません。人を追います。高校では「自分探し」大学では「リベラルアーツ」による人づくりです。そこには3つの柱があります。そのため3つのイメージを持ちます。

1つ目は、働く人です。体や手を動かして働くのが人づくり教育の基本です。人は手とも言います。手を動かし、脳を働かせるのです。労作や、ボランティア、行事は大切な教育活動です。寮教育も大きな意義があります。人のぬくもりを学びます。少人数ならではの可能な取り組みです。大学では地域に根差したサービスラーニングを通して社会に必要な人材を育てています。そのためには地域との繋がりが重要です。新発田市、聖籠町及びオレンジ会のご協力のもと実践的な教育ができていることに感謝いたします。

2つ目は、考える人です。事実の前に謙遜になり、真理を学びます。困難に出会った時、ただそれに流されるのではなく、そこでどう共に生きるかを考えるのです。呪いやまじない

といった非科学的なことに頼らず、事実の前にしっかりと立てる人になります。

3つ目は祈る人です。「御国が来ますように」これが私たちの目当てです。それはキリスト教国が来ますようにということではありません。もちろん私の思いどおりになる国が来ますようにというのでもありません。神様の御心を求める祈りです。現代は、祈りを知らない時代と言えます。この世が愛と平和になるようにとの祈りです。敬和学園はそれに向かっていくのです。キリスト教主義に基づく真理です。真理に向かわない教育は「狂育」になります。真理に向かい、それを求める。それが祈りです。

数年前から「日本私立大学連盟」による「私立大学ガバナンス・コード」が出されています。敬和学園としても、独自の理念に立ちつつ自主性と多様性に基づく学園としてのガバナンスの強化、向上を目指していきたいと思います。大学、高校を通してその財政、組織の在り方、教育の進め方、教職員、理事・評議員会の在り様を検討しています。大学では教学関連及び経営関連それぞれの「中長期計画」を立て、1学部、1学科、6コースの改革案を立てて歩み始めています。

7年かけた高大一貫教育は、敬和の大きな特徴です。高校からは大学へ毎年50人を送ることを目標にしています。2023年度は40名を送ることができました。24年度は17名でしたが、この道筋をさらに強めていきたいと思います。

私学の特徴として寄付による支えを求めることも重要です。寄付は財政の支柱であると共に大きな教育運動です。敬和教育への理解を深めつつ、支援を求めています。良い教育するためにはお金が必要です。真の教育、その場には寄付が集まります。

2024年度も神の御心に沿うものとなるように祈りと力を合わせたいと思います。

2. 大学

大学では、コロナ禍の制限もなくなり、入学式をはじめとした各事業が正常の状態となり、教育研究活動や学生の課外活動にも活気が戻りました。

以下、2023年度の大学の教育研究活動等の取り組みについて報告します。

(1) 大学の理念・目的、3ポリシー

◇建学の精神

神を敬い、人に仕える

◇ミッション・ステートメント

敬和学園大学は、キリスト教精神に基づく自由かつ敬けんな学風の中でリベラル・アーツ教育を行い、グローバルな視点で考え、対話とコミュニケーションとボランティア精神を重んじ、隣人に仕える国際的教養人を育成する。

◇ヴィジョン

隣人に仕え持続可能な社会を担う良識ある市民を育成し、地域社会と国際社会に貢

献する。

◇3 ポリシー

・ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）

- ① 人権と人間の尊厳の原理を尊重する姿勢と真理を希求する姿勢を身につけている。（基礎知識）
- ② グローバルな視点を持ち、分析的・批判的に考えて判断し、明瞭かつ効果的に表現することができる。（専門知識、論理的思考、批判的思考）
- ③ 対話とコミュニケーションを重んじ、隣人に仕えることができる。（コミュニケーション能力）
- ④ 高い倫理的基準を持ち、地域社会に貢献することができる。（社会との関係）

・カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

- ① キリスト教に基づいたリベラルアーツ教育により、人権と人間の尊厳の原理を尊重する態度と教養を養う。（基礎知識）
- ② 異なる文化について複眼的に見ることができ、分析的・批判的に考えて判断し、明瞭かつ効果的に表現する力を養う。（専門知識、論理的思考、批判的思考）
- ③ 日本語と外国語を用いて、人とのコミュニケーションを豊かにする能力、さらに、情報リテラシーを身につけて、社会と対話する情報の受発信を行う能力を養う。（コミュニケーション能力）
- ④ 地域や国際社会の課題について理解を深め、インターンシップ等を通して社会に貢献する力を養う。（社会との関係）

・アドミッション・ポリシー（学生の受け入れ方針）

- ① グローバルな視点に立って考え、対話とコミュニケーションとボランティア精神を重視する、国際的教養人をめざす人。
- ② 敬和学園大学における学びを通じて、「人間とは何か、人生をいかに生きるか」を考える意欲を持つ人。
- ③ 真理と自由を探究する意欲があり、人の役に立ちたいと考える人。

（2）教学・学生支援

2023年度は、新型コロナウイルス感染症が2023年5月8日から「5類感染症」になりました。これに伴い学内外の諸活動がコロナ禍前とほぼ同じ状況で行われることになりました。その中で、4月には新入生オリエンテーションを、昨年度と同様にコロナ禍前より縮小する形式で学内にて実施しました。同じく4月には、新入生歓迎公開学術講演会を開催しました。10月の敬和祭（学園祭）では、在学生、学外者に対しても完全対面でコロナ禍前と同様に大規模なアトラクションも行い、多くの観客を集めることができました。7月にはスポーツ大会を開催しました。2月には入学予定者を対象とする入学前ス

クーリングを他のイベント同様に対面で開催しました。その他の入学式、卒業式等の行事は、来場者数を制限せずに対面で実施することが出来ました。

カリキュラムに関して、2021年度より英語教育プログラム KEEP (Keiwa Extensive English Program) の科目をレベル別に開講する等、英語教育の更なる充実を図りました。また、英語文化コミュニケーション学科は、2020年度よりグローバル・マインドを備えた人材を育成するキャリアコミュニケーション・コースを開設し、新カリキュラムを導入してから4年目の2023年度は全科目が開講されました。国際文化学科では、2019年度に新設した「情報メディア・コース」のカリキュラムが一巡し、全科目が開講されました。共生社会学科も、2021年度より「ソーシャルワーク・コース」のカリキュラムを大幅に改定して3年目も順調に終了しました。

2023年度は海外留学が完全再開し海外での留学に送り出すと共に、カケハシ・プロジェクト(米国ハワード大学との交流プログラム)では、3月にハワード大学からの15名(学生14名、引率者1名)の訪日プログラムがあり、本学学生14名及びメンバー以外の学生5名が参加し交流しました。

(3) 就職

「キャリア教育」「職業教育」「就職活動支援」プログラムの実施に関しては4年ぶりに全てのプログラムを対面形式で実施することが出来ました。

特に1年生の前期「基礎ゼミガイダンス」、2年生後期の授業科目「キャリア開発入門」を対面形式に戻せたことが重要でした。いずれもオンライン形式よりも高い効果を得ることができたと感じています。

3年生の授業科目「キャリア開発」も、オンラインとのハイブリッド形式から完全対面形式に戻すことで、学生達のリアクションを直に感じ取りながら授業を実施することができました。

インターンシッププログラムは、政府からの要請により、3年次生のみを対象とすることになりましたが、20名と多くの学生が参加しました。新たなインターンシップでは、受入側が採用活動開始以降に限りインターンシップを通じて取得した学生情報を活用することが出来るようになり、就職に直結する可能性が大きくなりました。

毎年7月に実施している3年次生保護者との懇談会では、4年ぶりに会場を新潟市内のホテルに戻して飲食を伴う懇談会を第2部に実施し、保護者の方とリラックスした雰囲気の中、情報交換を行うことができました。

学生の就職活動早期化に合わせてイベント内容を変更した企業との情報交換会は成功裏に終わりましたが、同じく早期化に合わせて実施時期を3月から2月に早めた学内業界研究セミナー(学内合同企業説明会)は昨年以上に参加学生数が減り、就職活動の早期化、分散化が進んでいる状況が浮き彫りとなりました。

【2023 年度 就職状況】

(2024 年 5 月 1 日現在)

就職率 76.1%、就職内定率 97.8%、就職者数 134 名、進学者数 3 名

〔主な就職先〕

(福) 愛宕福祉会、アパホテル(株)、(福) いじみの福祉会、SGH グローバルジャパン(株)、岡三にいがた証券(株)、麒麟山酒造(株)、(株)クスリのアオキ、(株)くらしの友、(株)クラントス、コネクシオ(株)、サミット(株)、JR 東日本新潟シティクリエイティブ(株)、(株)ジョイフルタウン、第一生命保険(株)、ダイレックス(株)、千葉県小学校教諭、(株)ツクイ、トヨタモビリティ東京(株)、社会医療法人新潟勤労者医療協会下越病院、(株)新潟クボタ、新潟県信用組合、新潟総合警備保障(株)、日本郵便(株)、(福) のぞみの家福祉会、(株)ファースト、(株)北越ケース、丸三証券(株)、(株)ヨドバシカメラ、(株)リビングギャラリー、労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団 他

(4) 広報・入試

2024 年度入学者は 142 名と定員に届かず、昨年より減少しました。学科別では、国際文化学科が定員を集めたことに対し、英語文化コミュニケーション学科と共生社会学科の入学者数が低迷し、学科間の人数格差は解消されませんでした。法人間では、敬和学園高等学校からの入学者が大幅に減少し、これが定員割れの最大の要因となりました。2023 年 5 月に新型コロナウイルスが 5 類に移行し、その影響は薄らいてきており、高校訪問、業者主催の会場ガイダンス、高校内ガイダンスの実施については、一部制約は残ったもののコロナ禍前の水準まで戻りつつあります。海外からの新入留学生は 14 名と大幅に増えました。

7、8、9 月のオープンキャンパスの参加者は、定員をほぼ満たす形で実施することができました。オープンキャンパス及び英検講座等の参加者数は増加しましたが、出願と入学手続きに結び付かない傾向がありました。参加者アンケートでは、本学を希望する比率が下がっており、コロナ禍が明けて入学確度の低い参加者が多くなったことがわかります。このため、オープンキャンパスの参加者をより増やしていく必要があります。

学力型選抜での志願者数増は、SNS 広告を増やして、本学の教育についてアピールしたことが功を奏したと推測されます。18 歳人口が落ち込んだ 2024 年度入学者選抜においても、近年伸び悩んでいた学力型選抜の志願者を教育力やその成果を広くアピールすることで掘り起こせることがわかりました。一方で、学業特待生選抜は受験者数、入学者数とともに大きく減少しました。特待生制度だけでは、受験生を引き留められていないことがわかります。学力型選抜(共通テスト利用型含む)の受験生は、複数の大学を比較し入学先を決定します。引き続き特に上位層に対する教育力の強化とアピールをすすめ、入学者確保につなげていくことが必要です。

(5) 財政

2023 年度決算において、事業活動収入から事業活動支出を差し引いた「基本金組入前当年度収支差額」は 7,424 万円の支出超過となりました。

本年度は 2019 年度以来の収容定員を下回る状況のなか、エネルギー価格上昇に伴う物価高騰やコロナ収束後の教育活動活発化などに対応していく必要があると判断し、委員会等の予算支出のシーリングを緩和する形で予算編成を行いました。また中期計画に基づく大規模修繕工事(約 7 千万円)も実施することとしました。予算執行においては事業経費の見直しや効率的・効果的な執行に取り組み、当初予算で 8,565 万円の支出超過見込みでしたが、決算では見込みの範囲に収まり 1,141 万円改善しました。

中期計画の大規模修繕工事は計画どおり実施し、教育環境の維持・整備をすることができました。とくにオレンジホール横トイレ改修工事と体育館トレーニングルーム・武道場空調設備設置工事は、学生や広報行事アンケートなどで寄せられた意見・要望に応えたものです。その内、空調設備工事は後援会からのご支援をいただきました。

本年度も、学生や大学の教育活動に対し、大学後援会、オレンジ会、留学生を支える会の皆様方より多大なご支援を賜りましたこと心よりお礼と感謝を申し上げます。

(6) 2023 年度 卒業者数 (9 月卒業者含む)

英語文化コミュニケーション学科	45 名
国際文化学科	106 名
共生社会学科	29 名
合 計	180 名

(7) 地域連携・地域貢献活動（新発田市・聖籠町関係）

【主なボランティア活動・サービスラーニング活動】

4月22日、7月15日、11月18日	五十公野山モノづくりボランティアの会
5月～12月	わくわく English（佐々木小学校）
5月13日	しおかぜウォーク（新発田市）
5月13日	旧本田小学校廃校清掃（新発田市）
5月20日	蓮野小学校運動会（聖籠町）
6月～12月	新発田市人権フェスティバル実行委員
6月3日・4日	しばた寺びらき（新発田市）
6月17日	旧松浦小学校廃校清掃（新発田市）
6月23日、7月5日	ジャパネットクルーズ船に伴う観光案内（新発田市）
6月25日、11月5日	ビブリオバトル in イクネスしばた（新発田市）
7月4～6日、10月3～12日	健康長寿アクティブシニア推進事業「eスポーツ体験会」（新発田市）
7月5日・19日、9月4日	新発田市小学校防災キャンプ川活動（新発田市）
7月29日	サマーフェスティバル2023出店（新発田市）
7月29日	東豊コミュニティ防災センター効果促進事業「防災講演会&夏祭り」（新発田市）
8月～1月	新発田市内店舗取材映像制作、フードバンクしばた取材映像制作（新発田市）
10月15日	子どもまつり2023（新発田市）
10月21日	エコカーニバル（新発田市）
10月26日	ふれあいバラエティ（敬和学園大学）
11月25日	オレンジカフェなないろのわ イベント補助（新発田市）
12月～1月	新発田市歴史図書館資料整理（新発田市）
12月9日	フードバンクしばた味噌作り体験（新発田市）
1月14日	しばた雑煮合戦（新発田市）
1月19日	七葉小学校スキー教室（新発田市）
2月5日	まちづくりドラフト会議 for Youth（新発田市）
2月20日	蓮野小学校車椅子体験（聖籠町）
2月23日	まちづくりフェスタ（新発田市）
通年	新発田市川東地区上三光農福連携事業（新発田市）
通年	新発田ローターアクトクラブ活動（新発田市）
通年	フードバンクしばた寺子屋無料塾 小学生学習支援（新発田市）
通年	阿賀北ノベルジャム2023
通年	ラジオ番組「敬和キャンパスレポ」（エフエムしばた）
通年	土曜学習塾 小・中学生学習支援（新発田市）
通年	放課後子ども教室運営スタッフ（支援補助員）（聖籠町）

(8) オープンカレッジ等主な行事

(人)

日程	演題	講師	参加人数
新発田市 オープンカレッジ 会場：イクネスしばた			
10月24日(火)	聖書にみる貨幣から読み解く同時代史	田中利光 教授	19
11月7日(火)	知っているようで知らない学校のはなし	江口和美 准教授	14
聖籠町 キッズ・カレッジ 「子ども英語教室」 会場：聖籠町町民会館、結ハート聖籠			
9月16日(土)	子ども陶芸教室<型づくり>	趙 晤衍 教授 陶芸部学生	11
9月30日(土)	子ども陶芸教室<絵付け>	趙 晤衍 教授 陶芸部学生	11
10月7日(土)	英語で遊ぼう！(その1)	大岩彩子 准教授 英語文化コミュニケーション学科学生	10
12月9日(土)	英語で遊ぼう！(その2)	大岩彩子 准教授 英語文化コミュニケーション学科学生	5
そ の 他			
4月14日(金)	新入生歓迎公開学術講演会 「第三次世界大戦を回避するために」 会場：敬和学園大学	スティーブン・リーパー氏 NPO法人Peace Culture Village代表理事	250
5月15日(月)	カナダ文化・文学連続講演会 1日目「My Queer Eye: A Brief Personal History of Lesbian, Gay and Trans Filmmaking in Canada」	Midi Onodera 映像作家	40
16日(火)	2日目「マーガレット・アトウッドが語る <マッドアダム>(MaddAddam) 三部 作と環境問題」	佐藤アヤ子 明治学院大学 名誉教授・翻訳家	30
5月20日(土)	英検2級試験対策英語集中講座 会場：敬和学園大学	主濱祐二 准教授	29
5月20日(土)	英検準2級試験対策英語集中講座 会場：敬和学園大学	長 和重 非常勤講師	24
9月16日(土)	英検2級試験対策英語集中講座 会場：敬和学園大学	大岩彩子 准教授	18
9月16日(土)	英検準2級試験対策英語集中講座 会場：敬和学園大学	長 和重 非常勤講師	24
3月2日(土)	「阿賀北ノベルジャム2023」 グランプリ授賞式 会場：ホテル泉慶		24
3月22日(金)	講演会：「それでもパレスチナに木を植える」 会場：敬和学園大学	高橋美香 写真家	45

IV. 教員・職員研修会

1. 法人

12月2日(土) SD研修会 高等学校・大学合同研修会 場所:敬和学園高等学校
理事、大学・高等学校教職員 91名

主題「危機の只中であって敬和教育を守っていくために」

第1部 説教者:榎本榮次 理事長

「わたしの羊を飼いなさい」

第2部 発題:① 小田中肇 校長

② 金山愛子 大学長

第3部 分団協議

2. 大学

7月19日(水) FD研修会 教職員 35名

テーマ「PROGの活用方法について」

講師:谷川雅之氏 (株)リアセックキャリア総合研究所 主任研究員

8月8日(火) FD/SD研修会 教職員 24名

第1部(FD) 2021年度教員教育奨励賞受賞者の講話

講師:藤本晃嗣 国際文化学科 准教授

第2部(FD) 1年次生情報共有会

第3部(SD) ①大学基準協会の指標を用いた評価方法について

講師:田中利光 自己点検・評価委員長

②学習成果の可視化の考え方について—直接評価の指標と間接評価の指標

講師:金山愛子 学長

9月8日(金) SD研修会 事務職員研修会 学長、職員 30名

第1部:情報セキュリティ研修

講師:野崎新吾氏 (株)インソース

第2部:キリスト教学校教育同盟夏期学校参加報告

報告者:職員3名

9月27日(水) 研究倫理・コンプライアンス研修会 教職員 31名

12月27日(水) FD/SD研修会 教職員 50名

テーマ「IT研修」

第1部: Google クラウド・生成 AI で始める DX

講師: 一戸信哉(ネットワーク委員、国際文化学科 教授)

第2部: Google Meet への移行と使い方

講師: 松本淳(ネットワーク委員長、国際文化学科 准教授)

2月14日(水) FD研修会 教職員 5名

テーマ「PROG テストの概要及び結果説明会」

第1部: 教職員向け概要説明

第2部: 学生・教職員向け PROG サンプルテスト受験者への結果説明会

3. 高等学校

3月30日(木) 春の教職員研修会

「全員参加の学校づくり」

校長発題 小田中肇 校長

事前アンケートと分団での話し合い及び発表

これからの制服について 柏菜穂 先生

7月26日(水) 夏の教員研修会

「多様性 ～個性を花束にする教育～」

発達障害を持つ生徒の理解と支援

講師: 有川宏幸氏(新潟大学教育学部障害児心理学研究室)

12月22日(金) 冬の教職員研修会

「新たな誕生」

・クリスマス物語が私に語り ~バツハのパストラーレと福音書より

講師: 下川羊和氏 新潟福音教会 牧師

・i-pad を使った授業展開について

青柳希望先生・與那城初穂先生・岩原寅太郎先生

V. 当期に行った主な新規事業

1. 大学

(1) 高等教育修学支援制度(高等教育無償化)

「国の認定を受けた新入生や在学生在が「授業料と入学金の減免(免除又は減額)」と「給付型奨学金(返還不要)の二つの支援を世帯収入に応じて受けられる」

授業料等減免費交付金 52,287千円

※同額奨学費計上、96人分。

(2) 学生寮(2016年4月開設、2023年4月の寮生31人(充足率77.5%))

収入 寮費用収入(総額表示) 18,338千円

新発田市からの補助金 12,000千円

支出 寮補助活動費(総額表示) 39,397千円

人件費(寮監ほか) 2,172千円

寮施設設備減価償却額 1,736千円

学バス増便分 5,681千円

(3) 学長裁量費関係

アクティブラーニング活動費6件分 879千円

(4) 将来構想検討・高校生対象アンケート調査 2,200千円

2. 高等学校

(1) 寮2館体制(男女各1館)に移行

(2) スクールバス 聖籠経由新設

(3) 県私学特色教育チャレンジ支援事業

ICT教育環境の整備推進 900千円

外部人材活用等の推進 360千円

VI. 当期に行った主な施設設備の整備状況

1. 大学

(1) 栄光館 I 期外部改修工事	38,940千円
(2) 栄光館小教室(E31~34)・新発田館中教室(S23)空調設備更新工事	14,300千円
(3) 体育館トレーニングルーム武道場空調設備設置工事(一部後援会からのご支援)	13,090千円
(4) オレンジホール横トイレ改修工事	7,150千円
(5) 図書館照明LED化工事	4,862千円
(6) 教室用空気清浄機(後援会からのご支援)	1,544千円
(7) 電子黒板・教室プロジェクター(後援会からのご支援)	1,125千円

2. 高等学校

(1) スクールバス(中古)購入	11,660千円
(2) 大望館 浄化槽新設工事	8,646千円
(3) 友愛館 GHP入替工事(3年計画2年目)	6,600千円
(4) グラウンド整備工事	2,563千円
(5) 黎明館 I 階床貼替工事	1,639千円

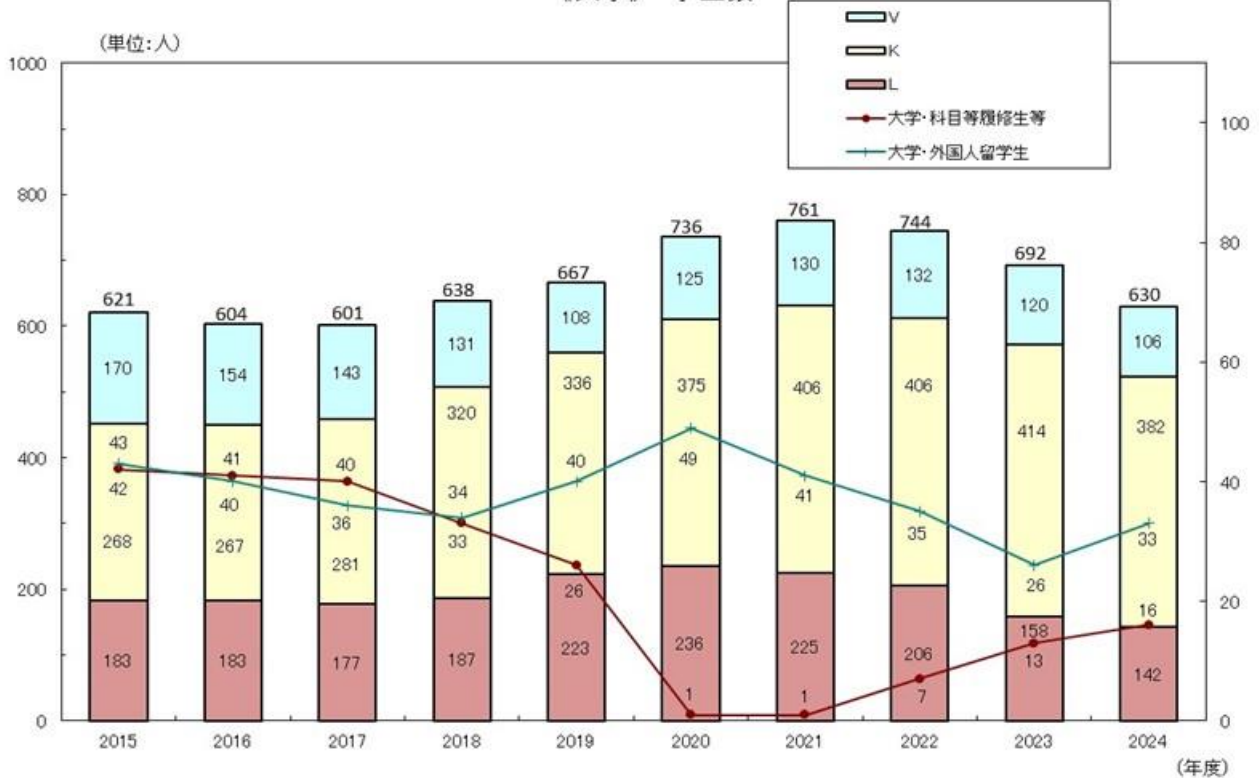
VII. 学生数・教職員数等の推移

※学生数・教職員数等は各年度の5月1日現在 学校基本調査より

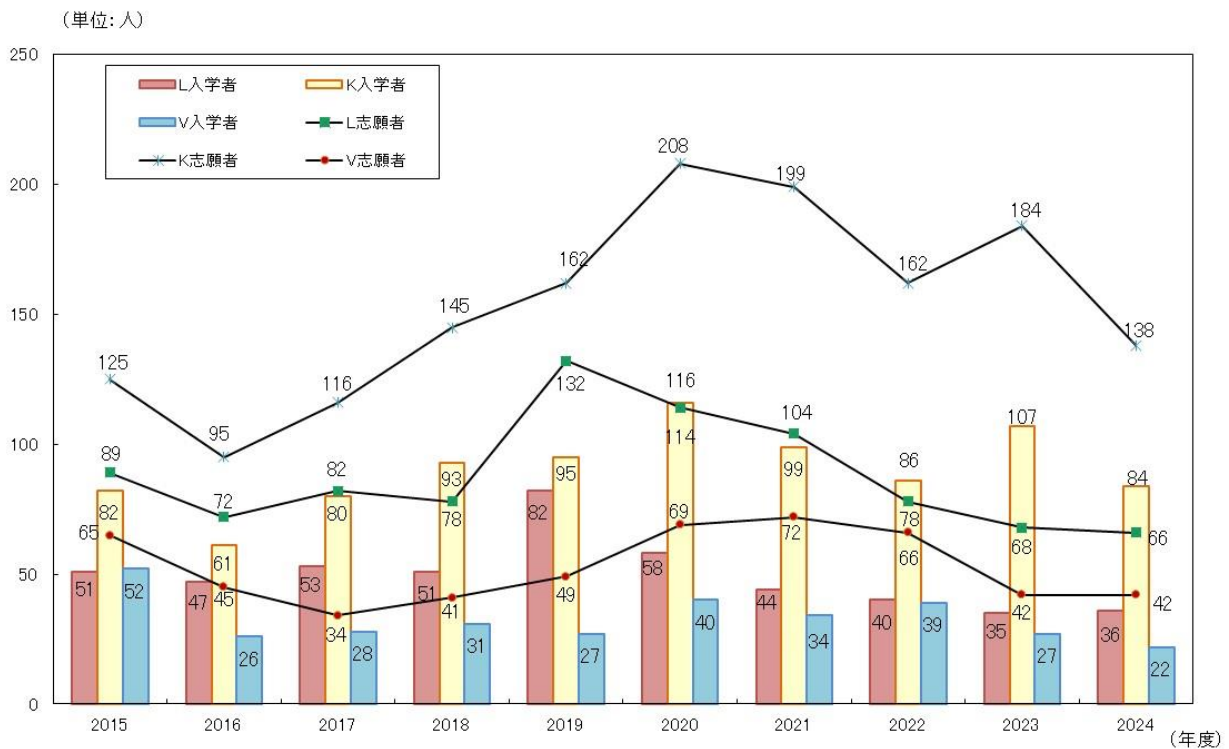
《大学部門》

L = 英語文化コミュニケーション学科
K = 国際文化学科 V = 共生社会学科

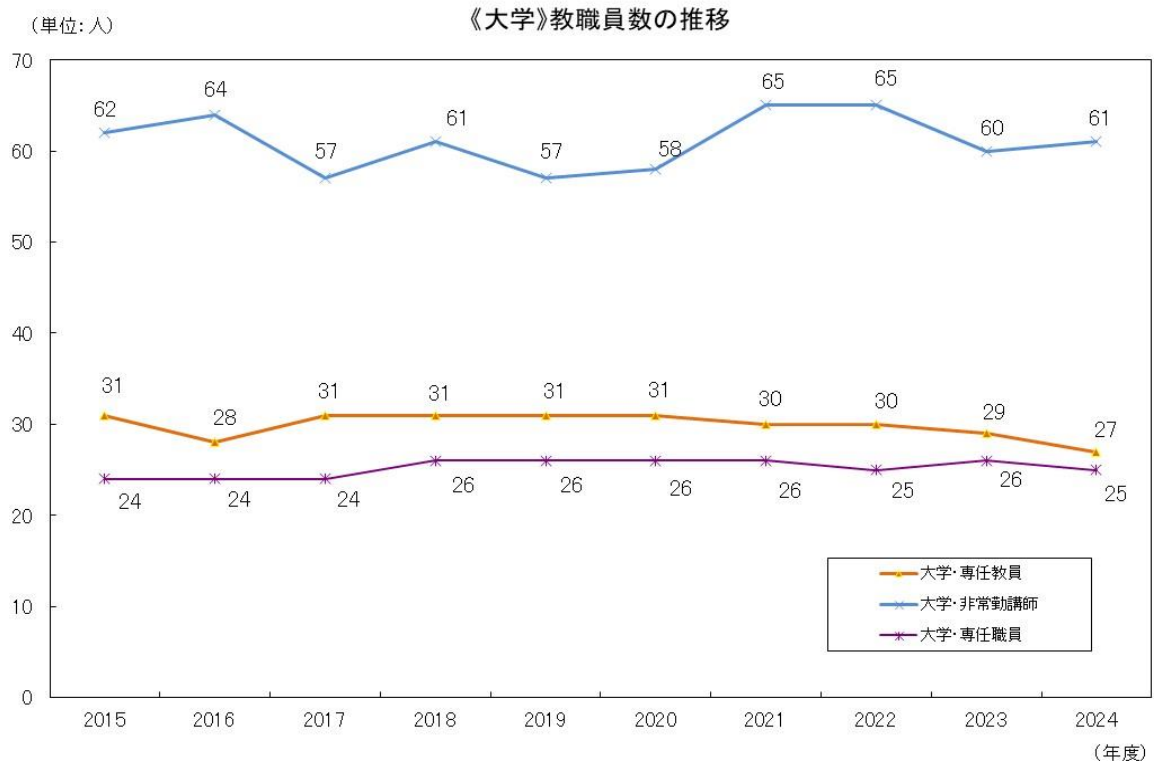
《大学》 学生数



《大学》 志願者数と入学者数



《大学部門》



VIII. 財務の概要

1. 決算の概要(法人全体)

(1) 貸借対照表関係

①貸借対照表の状況と経年比較

(千円)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
固定資産	4,032,684	3,832,878	3,710,038	3,640,062	3,554,362
流動資産	1,725,388	1,894,831	1,878,800	1,727,840	1,656,023
資産の部合計	5,758,072	5,727,710	5,588,839	5,367,903	5,210,385
固定負債	405,807	408,214	403,908	389,444	375,344
流動負債	356,453	378,369	365,418	330,426	334,040
負債の部合計	762,260	786,583	769,327	719,871	709,384
基本金	8,461,781	8,489,795	8,562,956	8,652,494	8,747,060
繰越収支差額	△3,465,968	△3,548,669	△3,743,444	△4,004,462	△4,246,058
純資産の部合計	4,995,812	4,941,126	4,819,512	4,648,031	4,501,001
負債及び純資産の部合計	5,758,072	5,727,710	5,588,839	5,367,903	5,210,385

※千円未満を切り捨てて表示しているため合計が一致しない場合がある。

②財務比率の経年比較

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
運用資産余裕比率	94.3%	92.2%	92.3%	84.7%	78.7%
流動比率	484.0%	500.8%	514.2%	522.9%	495.8%
総負債比率	13.2%	13.7%	13.8%	13.4%	13.6%
前受金保有率	525.2%	637.7%	675.5%	625.6%	723.8%
基本金比率	97.9%	98.1%	98.3%	98.5%	98.7%
積立率	37.7%	37.2%	35.7%	31.9%	29.1%

(2) 資金収支計算書関係

① 資金収支計算書の状況と経年比較

(千円)

収入の部	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
学生生徒等納付金収入	1,032,100	1,103,752	1,073,643	1,049,389	1,024,393
手数料収入	19,700	17,884	17,221	17,222	16,497
寄付金収入	33,956	40,208	38,747	36,794	31,251
補助金収入	416,030	431,222	445,571	447,634	426,912
資産売却収入	203,279	79,513	40,585	55,839	1,029
付随事業・収益事業収入	81,116	74,533	54,849	36,810	48,520
受取利息・配当金収入	3,424	928	771	590	581
雑収入	30,383	82,499	47,899	54,854	84,453
借入金等収入	0	0	0	0	0
前受金収入	257,104	228,843	218,434	220,215	176,096
その他の収入	69,065	61,402	108,607	77,094	75,643
資金収入調整勘定	△258,354	△357,137	△295,476	△283,249	△314,722
前年度繰越支払資金	1,176,504	1,350,359	1,459,435	1,475,502	1,377,645
収入の部合計	3,064,312	3,114,011	3,210,289	3,188,700	2,948,303

(千円)

支出の部	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
人件費支出	1,090,740	1,128,290	1,084,076	1,068,334	1,083,570
教育研究費支出	324,053	347,555	387,344	422,486	367,646
管理経費支出	148,829	146,924	150,441	159,492	165,008
借入金等利息支出	2,165	1,998	1,828	1,656	1,483
借入金等返済支出	13,492	12,629	12,799	12,971	11,187
施設関係支出	19,250	10,866	32,774	33,888	41,470
設備関係支出	50,997	34,074	45,834	63,447	32,636
資産運用支出	37,464	7,476	9,851	7,427	7,511
その他の支出	95,096	59,035	102,602	114,528	82,096
資金支出調整勘定	△68,136	△94,275	△92,763	△73,178	△118,842
翌年度繰越支払資金	1,350,359	1,459,435	1,475,502	1,377,645	1,274,533
支出の部合計	3,064,312	3,114,011	3,210,289	3,188,700	2,948,303

※千円未満を切り捨てて表示しているため合計が一致しない場合がある。

②活動区分資金収支計算書の状況と経年比較

(千円)

科目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
教育活動による資金収支					
教育活動資金収入計	1,606,403	1,736,907	1,648,979	1,628,240	1,625,388
教育活動資金支出計	1,563,619	1,622,647	1,621,554	1,650,314	1,616,167
差引	42,783	114,260	27,424	△22,073	9,221
調整勘定等	25,229	△54,197	25,609	△18,319	△22,272
教育活動資金収支差額	68,013	60,063	53,034	△40,393	△13,051
施設整備等活動による資金収支					
施設整備等活動資金収入計	8,165	13,188	29,268	14,494	6,663
施設整備等活動資金支出計	70,248	44,942	78,609	97,336	74,108
差引	△62,082	△31,753	△49,340	△82,842	△67,444
調整勘定等	7,416	32	△5,265	△3,135	△11,851
施設整備等活動資金収支差額	△54,666	△31,721	△54,605	△85,978	△79,296
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)	13,347	28,341	△1,571	△126,372	△92,348
その他の活動による資金収支					
その他の活動資金収入計	215,328	103,898	49,655	67,241	12,533
その他の活動資金支出計	54,820	23,164	32,017	38,726	23,297
差引	160,508	80,733	17,638	28,515	△10,764
調整勘定等	0	0	0	0	0
その他の活動資金収支差額	160,508	80,733	17,638	28,515	△10,764
支払資金の増減額(小計+その他の活動資金収支差額)	173,855	109,075	16,066	△97,856	△103,112
前年度繰越支払資金	1,176,504	1,350,359	1,459,435	1,475,502	1,377,645
翌年度繰越支払資金	1,350,359	1,459,435	1,475,502	1,377,645	1,274,533

※千円未満を切り捨てて表示しているため合計が一致しない場合がある。

③財務比率の経年比較

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
教育活動資金収支差額比率	4.2%	3.5%	3.2%	-2.5%	-0.8%

(3) 事業活動収支計算書関係

①事業活動収支計算書の状況と経年比較

(千円)

科目	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	
教育活動収支	事業活動収入の部					
	学生生徒等納付金	1,032,100	1,103,752	1,073,643	1,049,389	1,024,393
	手数料	19,700	17,884	17,221	17,222	16,497
	寄付金	28,064	29,397	29,998	27,953	25,170
	経常費等補助金	415,245	429,535	425,571	442,478	426,358
	付随事業収入	81,116	74,533	54,849	36,810	48,520
	雑収入	30,383	82,495	47,829	54,642	85,278
	教育活動収入計	1,606,611	1,737,599	1,649,114	1,628,498	1,626,218
	事業活動支出の部					
	人件費	1,105,512	1,142,486	1,097,896	1,071,812	1,087,167
	教育研究経費	441,536	463,183	501,601	536,040	478,327
	管理経費	202,837	193,818	189,106	201,133	212,920
	徴収不能額等	545	10	30	496	0
	教育活動支出計	1,750,431	1,799,498	1,788,635	1,809,482	1,778,415
教育活動収支差額	△143,819	△61,899	△139,520	△180,984	△152,196	
教育活動外収支	事業活動収入の部					
	受取利息・配当金	3,424	928	771	590	581
	その他の収入	0	4	6	0	5
	教育活動外収入計	3,424	932	778	591	586
	事業活動支出の部					
	借入金等利息	2,165	1,998	1,828	1,656	1,483
	その他の支出	3	0	0	0	0
	教育活動外支出計	2,169	1,998	1,828	1,656	1,483
教育活動外収支差額	1,254	△1,065	△1,049	△1,064	△896	
経常収支差額	△142,565	△62,965	△140,570	△182,049	△153,093	
特別収支	事業活動収入の部					
	資産売却差額	1,199	1,348	384	238	29
	その他の特別収入	7,733	14,227	33,000	15,877	9,554
	特別収入計	8,933	15,576	33,385	16,116	9,583
事業活動支出の部						

	資産処分差額	57,558	4,898	14,123	5,547	3,463
	その他の特別支出	0	2,397	306	0	57
	特別支出計	57,558	7,296	14,429	5,547	3,521
	特別収支差額	△48,625	8,279	18,956	10,568	6,062
	基本金組入前当年度収支差額	△191,190	△54,685	△121,614	△171,480	△147,030
	基本金組入額合計	△27,602	△28,014	△73,161	△89,537	△94,565
	当年度収支差額	△218,793	△82,700	△194,775	△261,018	△241,596
	前年度繰越収支差額	△3,247,175	△3,465,968	△3,548,669	△3,743,444	△4,004,462
	基本金取崩額	0	0	0	0	0
	翌年度繰越収支差額	△3,465,968	△3,548,669	△3,743,444	△4,004,462	△4,246,058

(参考)

事業活動収入計	1,618,968	1,754,108	1,683,279	1,645,205	1,636,389
事業活動支出計	1,810,159	1,808,793	1,804,893	1,816,686	1,783,420

※千円未満を切り捨てて表示しているため合計が一致しない場合がある。

②財務比率の経年比較

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
人件費比率	68.7%	65.7%	66.5%	65.8%	66.8%
人件費依存率	107.1%	103.5%	102.3%	102.1%	106.1%
教育研究経費比率	27.4%	26.6%	30.4%	32.9%	29.4%
管理経費比率	12.6%	11.1%	11.5%	12.3%	13.1%
借入金等利息比率	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%	0.1%
事業活動収支差額比率	-11.8%	-3.1%	-7.2%	-10.4%	-9.0%
基本金組入後収支比率	113.7%	104.8%	112.1%	116.8%	115.7%
学生生徒等納付金比率	64.1%	63.5%	65.1%	64.4%	63.0%
寄付金比率	2.2%	2.4%	2.6%	2.3%	2.1%
経常寄付金比率	1.7%	1.7%	1.8%	1.7%	1.5%
補助金比率	25.7%	24.6%	26.5%	27.2%	26.1%
経常補助金比率	25.8%	24.7%	25.8%	27.2%	26.2%
基本金組入率	1.7%	1.6%	4.3%	5.4%	5.8%
減価償却額比率	9.8%	9.0%	8.6%	8.6%	8.9%
経常収支差額比率	-8.9%	-3.6%	-8.5%	-11.2%	-9.4%
教育活動収支差額比率	-9.0%	-3.6%	-8.5%	-11.1%	-9.4%

2. その他

(1) 有価証券の状況

(円)

種 類	貸借対照表計上額	時 価	差 額
債券	50,000,000	49,872,000	△128,000
株式	1,112,000	1,532,000	420,000
その他	285,624,453	285,624,453	0
合 計	336,736,453	337,028,453	292,000
時価のない債券	185,207		
有価証券合計	336,921,660		

(2) 借入金の状況

(円)

借入先	期末残高	利 率	返済期限等
大光銀行	100,675,159	1.00~1.40%	2034年3月
借入金合計	100,675,159		

(3) 学校債の状況

該当なし

(4) 寄付金の状況

(円)

	金 額	寄付者・内容
一般寄付金	8,388,221	個人、企業・団体等
特別寄付金	16,782,657	個人、企業・団体等
施設設備寄付金	6,080,300	企業・団体等
現物寄付金	2,920,148	個人、科研費取得図書・物品
寄付金合計	34,171,326	

(5) 補助金の状況

(円)

	内容等	金額
国庫補助金	私立大学等経常費補助金	115,844,000
	授業料等減免費交付金	52,287,400
合計		168,131,400
地方公共団体補助金	新発田市包括連携協定推進事業補助金	12,000,000
	聖籠町阿賀北ノベルジャム補助金	500,000
	新潟県産学連携促進事業補助金	110,000
	新潟県結核予防費補助金	50,453
	新潟県私立学校振興補助金	240,673,000
	新潟県私立高等学校等学費軽減事業補助金(東日本大震災対応分を含む)	3,607,165
	新潟県私立高校特色教育チャレンジ支援事業	1,260,000
	新潟県高等学校就学支援事務費補助	458,000
	新潟県私立高等学校等学び直し支援補助金	79,200
	新潟市役所結核予防費補助金	43,200
合計		258,781,018
補助金合計		426,912,418

(6) 収益事業の状況

収益事業は行っていない。

(7) 関連当事者との取引の状況

(円)

属性	役員・法人等の名称	住所	資本金又は出資金	事業の内容又は職業	関係内容		取引内容	取引金額	勘定科目	期末残高
					役員 の兼 任等	事業 上の 関係				
役員が支配している会社	新発田建設(株) (注1)	新発田市	80,000,000	建設業	—	校舎の建築及び施設修繕	校舎建築及び施設修繕費用の支払 (注2)	46,885,460	未払金	264,000

(注1) 監事の渡辺明紀が同社の代表取締役社長である。また議決権の過半数を直接保有している。

(注2) 施設修繕費用については、新発田建設株式会社以外からも複数の見積り入手し、見積り競争の上、発注先・発注金額を決定している。

(8) 学校法人間財務取引

該当なし

(9) 経営の分析、経営上の成果と課題、今後の方針・対応方策

①経営の分析について

- ・ 法人全体の基本金組入前当年度収支差額は1億4,703万円の支出超過となった。3年連続で1億円を超える赤字となるが、昨年決算に比べて2,444万円減額した。
- ・ 収支赤字の主な理由として、生徒・学生数の減少による収入減少と、大学の中期計画に基づく施設設備整備などによる支出増加があげられる。
- ・ 上記のような結果であるが、日本私立学校振興・共済事業団が作成している「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分」によると、本学園の経営状態の評価は、A1からD3の14区分のうちB0(イエローゾーンの予備的段階)となった。

②経営上の成果と課題

- ・ 高校、大学部門ともに当初予算に比べると決算収支は改善し、法人全体の支出超過額は2,908万円減額した。
- ・ 高校部門において、中期計画の取り組みに加え、人件費抑制や寮施設運営の見直しなどにより、合計で5千万円以上の経費削減を行った。
- ・ 老朽化した施設設備の維持保全・更新費用が必要であり、その財源確保が課題である。
- ・ 入学定員や収容定員の充足について、高校は回復傾向にあるが、大学は低下している。

③今後の方針・対応方策

- ・ 少子化の加速により大幅な生徒数・学生数の増加を期待するのは困難な状況にあるが、各学校が定員充足の状況に応じて収支バランスの均衡を図りながら身の丈にあった経営

を行い、法人全体として財務の健全化を目指す。

- ・ 本学園の教育内容の充実や教育環境整備を計画的に行うこと、また入学者確保と退学者減少の取組みを進めることで生徒・学生数の確保に努め、収入の大部分を占める学納金収入の安定を目指す。

2019-2023 年度決算 事業活動収支計算書関係比率

《法人全体》

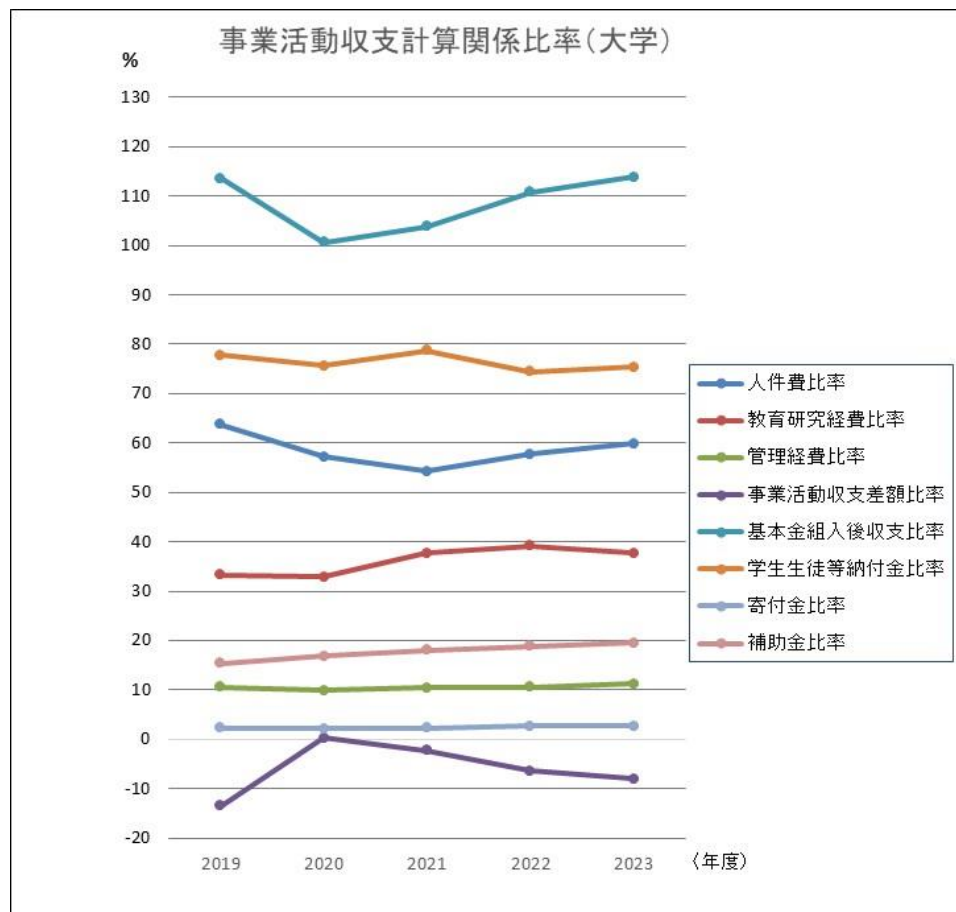
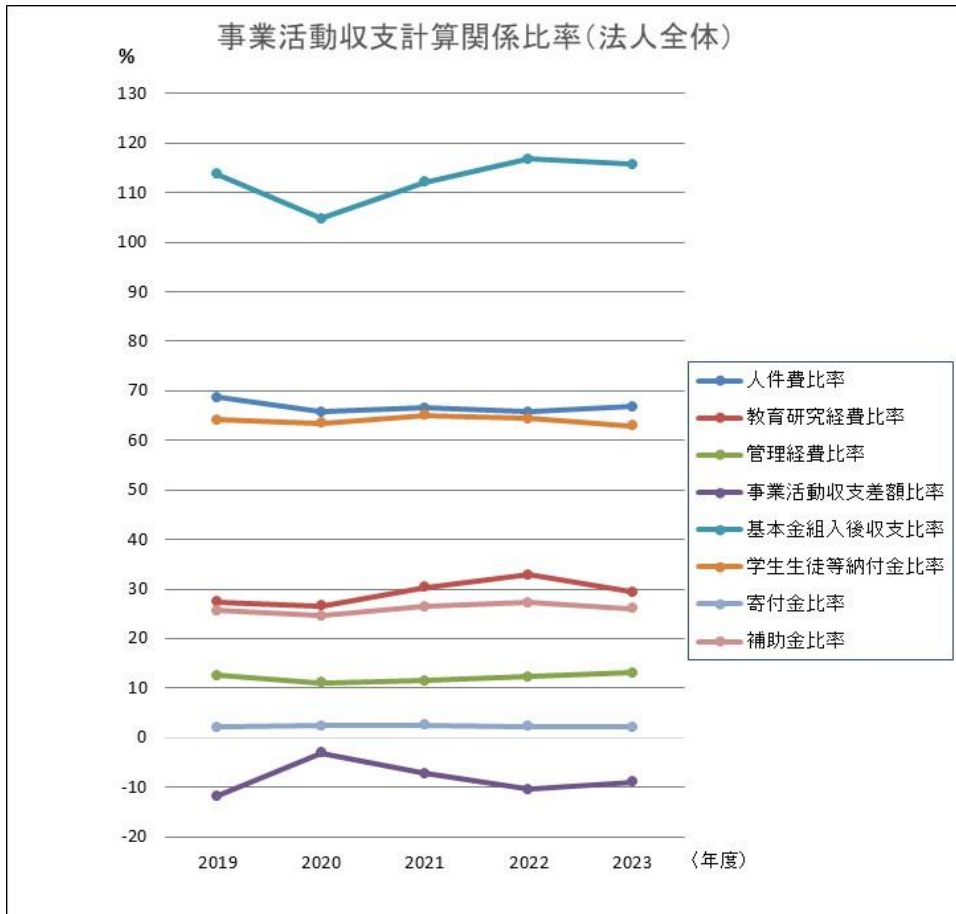
比率名・算出方法		法人全体				
		2019	2020	2021	2022	2023
1 人件費比率 ▼	$\frac{\text{人件費}}{\text{経常収入}}$	68.7 %	65.7 %	66.5 %	65.8 %	66.8 %
2 人件費依存率 ▼	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	107.1 %	103.5 %	102.3 %	102.1 %	106.1 %
3 教育研究経費比率 △	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経常収入}}$	27.4 %	26.6 %	30.4 %	32.9 %	29.4 %
4 管理経費比率 ▼	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経常収入}}$	12.6 %	11.1 %	11.5 %	12.3 %	13.1 %
5 借入金等利息比率 ▼	$\frac{\text{借入金等利息}}{\text{経常収入}}$	0.1 %	0.1 %	0.1 %	0.1 %	0.1 %
6 事業活動収支差額比率 △	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事業活動収入}}$	-11.8 %	-3.1 %	-7.2 %	-10.4 %	-9.0 %
7 基本金組入後収支比率 ▼	$\frac{\text{事業活動支出}}{\text{事業活動収入}-\text{基本金組入額}}$	113.7 %	104.8 %	112.1 %	116.8 %	115.7 %
8 学生生徒等納付金比率 ～	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{経常収入}}$	64.1 %	63.5 %	65.1 %	64.4 %	63.0 %
9 △ 寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{事業活動収入}}$	2.2 %	2.4 %	2.6 %	2.3 %	2.1 %
△ 経常寄付金比率	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経常収入}}$	1.7 %	1.7 %	1.8 %	1.7 %	1.5 %
10 △ 補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{事業活動収入}}$	25.7 %	24.6 %	26.5 %	27.2 %	26.1 %
△ 経常補助金比率	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経常収入}}$	25.8 %	24.7 %	25.8 %	27.1 %	26.2 %
11 基本金組入率 △	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{事業活動収入}}$	1.7 %	1.6 %	4.3 %	5.4 %	5.8 %
12 減価償却額比率 ～	$\frac{\text{減価償却額}}{\text{経常支出}}$	9.8 %	9.0 %	8.6 %	8.6 %	8.9 %
13 経常収支差額比率 △	$\frac{\text{経常収支差額}}{\text{経常収入}}$	-8.9 %	-3.6 %	-8.5 %	-11.2 %	-9.4 %
14 教育活動収支差額比率 △	$\frac{\text{教育活動収支差額}}{\text{教育活動収入計}}$	-9.0 %	-3.6 %	-8.5 %	-11.1 %	-9.4 %

※比率の高低の評価は次のとおり。 △ 高い値が良い ▼ 低い値が良い ～ どちらとも言えない

《大学部門》

比率名・算出方法		大 学				
		2019	2020	2021	2022	2023
1 人件費比率 ▼	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{経 常 収 入}}$	63.8 %	57.2 %	54.2 %	57.7 %	59.8 %
2 人件費依存率 ▼	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	82.1 %	75.8 %	68.9 %	77.6 %	79.4 %
3 教育研究経費比率 △	$\frac{\text{教 育 研 究 経 費}}{\text{経 常 収 入}}$	33.3 %	32.9 %	37.7 %	39.2 %	37.7 %
4 管理経費比率 ▼	$\frac{\text{管 理 経 費}}{\text{経 常 収 入}}$	10.5 %	9.9 %	10.4 %	10.6 %	11.2 %
5 借入金等利息比率 ▼	$\frac{\text{借 入 金 等 利 息}}{\text{経 常 収 入}}$	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %
6 事業活動収支差額比率 △	$\frac{\text{基本金組入前当年度収支差額}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	-13.5 %	0.3 %	-2.3 %	-6.4 %	-8.0 %
7 基本金組入後収支比率 ▼	$\frac{\text{事 業 活 動 支 出}}{\text{事業活動収入-基本金組入額}}$	113.6 %	100.6 %	103.8 %	110.7 %	113.9 %
8 学生生徒等納付金比率 ～	$\frac{\text{学 生 生 徒 等 納 付 金}}{\text{経 常 収 入}}$	77.7 %	75.6 %	78.7 %	74.4 %	75.4 %
9 寄付金比率 △	$\frac{\text{寄 付 金}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	2.3 %	2.1 %	2.3 %	2.7 %	2.7 %
經常寄付金比率 △	$\frac{\text{教育活動収支の寄付金}}{\text{経 常 収 入}}$	1.7 %	1.3 %	1.6 %	1.7 %	1.8 %
10 補助金比率 △	$\frac{\text{補 助 金}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	15.4 %	16.9 %	18.1 %	18.9 %	19.5 %
經常補助金比率 △	$\frac{\text{教育活動収支の補助金}}{\text{経 常 収 入}}$	15.5 %	17.1 %	17.7 %	18.8 %	19.6 %
11 基本金組入率 △	$\frac{\text{基 本 金 組 入 額}}{\text{事 業 活 動 収 入}}$	0.1 %	0.8 %	1.5 %	3.9 %	5.2 %
12 減価償却額比率 ～	$\frac{\text{減 価 償 却 額}}{\text{経 常 支 出}}$	6.8 %	6.5 %	6.5 %	6.1 %	6.4 %
13 經常収支差額比率 △	$\frac{\text{経 常 収 支 差 額}}{\text{経 常 収 入}}$	-7.6 %	0.0 %	-2.3 %	-7.6 %	-8.7 %
14 教育活動収支差額比率 △	$\frac{\text{教 育 活 動 収 支 差 額}}{\text{教 育 活 動 収 入 計}}$	-7.9 %	0.0 %	-2.4 %	-7.6 %	8.7 %

※比率の高低の評価は次のとおり。 △ 高い値が良い ▼ 低い値が良い ～ どちらとも言えない



—	人件費比率	▼低い値がよい
—	教育研究経費比率	△高い値がよい
—	管理経費比率	▼低い値がよい
—	事業活動収支差額比率	△高い値がよい
—	基本金組入後収支比率	▼低い値がよい
—	学生生徒等納付金比率	～どちらとも言えない
—	寄付金比率	△高い値がよい
—	補助金比率	△高い値がよい

学校法人敬和学園

2023年度事業報告書

2024年5月28日発行

学校法人 敬和学園

〒957-8585 新潟県新発田市富塚字三賀境1270番地

電話 0254-26-3636 FAX 0254-26-3646